

最新『急性腹症診療ガイドライン2025 第2版』
からひも解く！

患者さんの“つらい”を
軽減するために知る

急性腹症の 考え方と 実践フィジカル

豊富な
症例写真と
事例で解説

「腹痛」を訴え、来院される患者さんは多くいます。

しかし、特に急性腹症において、「緊急性の高い腹痛を見抜く必要性」や
「腹痛の要因が腹腔内にないケース」など、瞬時の判別や対応が難しいことも多々あります。
そこで本特集では、「急性腹症」の初期対応に必要な“考え方”と根拠となる病態生理を学びつつ、
看護師が現場で実践できる“フィジカル”について、事例を用いながら解説します。



【執筆】中野弘康 なかの・ひろやす
医療法人社団恵生会竹山病院 内科

2008年に東邦大学卒業。大船中央病院にて臨床研修、その後、聖マリアンナ医科大学病院、川崎市立多摩病院、大船中央病院を経て現職。日本内科学会総合内科専門医。「おなかのトラブル」を抱える患者さんを診療するのが大好き。

CONTENTS

P.12

はじめに

P.13

PART 1

ナースはどう動く？ 急性腹症の初期対応

P.15

STEP 1

まずは、何はともあれABCD(バイタルサイン)の評価

バイタルサインの考え方、全身外観の評価

ABCDに異常があれば…

P.17

緊急性の高い疾患を考える

ABCDに問題がなければ…

P.17

STEP 2

病歴・身体所見

病歴聴取のポイント、持続痛・間欠痛

『急性腹症診療
ガイドライン2025
第2版』を基に
解説！

P.21

PART 2

ナースがおさえておくべき 痛みの分類と病態生理

P.21 内臓痛

P.21 体性痛

P.21 関連痛

P.28

PART 3

ナースが現場で活かせる
急性腹症のフィジカルアセスメント

P.28 腹痛患者をみたら“おなかの外”も考えよう

P.30 腹部フィジカルの基本 視診、聴診、打診、触診、直腸診

P.35

最後に



P.24

COLUMN

「腸閉塞」と「イレウス」、混同していませんか？

P.26

COLUMN

若い女性の腹痛の見方

はじめに

皆さん、こんにちは。

私自身は腹痛という主訴や便秘・下痢・嘔気・嘔吐などの腹部症状にかなりこだわりをもって診療しています。しかし、「腹痛って難しい」「腹痛は苦手だから嫌い」という言葉をまわりでよく耳にします。理由はさまざまと思いますが、「**腹痛＝おなかの病気**」という公式が通用しないことや、時間経過とともに**どんどん悪化する疾患が含まれている**ことなどが主な理由でしょう。

以前、こんなケースを経験したことがあります。いろいろな意味で教訓的な症例なので、共有します。

患者：タクシー運転手の60歳代男性

経緯：「**みぞおちが痛い**」という訴えで、内科外来をウォークインで受診しました。

最近受けた健康診断で行った超音波検査にて、胆石を指摘されていました。

トリアージ担当の看護師は患者さんの話を聞き、まさきに**胆石症**を疑いました。その日の内科外来は患者さんでごった返し。初診担当の内科医はたまたま呼吸器内科が専門。医師に「胆石っぽい患者さんがいます……」と伝えと、「緊急性の低い患者は後にしてくれ！」と言われてしまいました。「そんなに怒らなくてもいいのに……」。その患者さんの診療がすぐに行われることはなく、待合室で診療を待っていました。

しばらくすると、患者さんは「気持ちが悪い」と言ってトイレに行き多量に嘔吐したので、院内急変コールに。救急看護師がトイレに駆けつけたところ、真っ青な顔で額に多量に汗をかいた患者さんが横たわっていました。かろうじて橈骨動脈は触知可能。すみやかに血糖測定と心電図検査が行われました。

心電図では胸部誘導で広範囲にSTの上昇があり、「**急性心筋梗塞(STEMI)**」の診断で循環器内科医がコールされました。患者さんは内科外来に戻ることなく、ストレッチャーに乗せられ緊急カテーテル検査へ……。

「後医は名医」という言葉があります。これは、初診の段階では患者さんから得られる情報が少ないため、適切な診断・判断を行うのが難しいことを意味します。今回のケースも、「みぞおちが痛い」というのを「胆石症」と早合点するのではなく、「**見逃すと致死的な病気**」から考えていれば、「急性心筋梗塞」の可能性を考慮して、心電図検査を医師に依頼することはできたかもしれません。

では、この臨床判断を行うために必要なスキルは何でしょうか？ もちろん経験も大切ですが、私は「経験」よりはるかに重要なスキルがあると思っています。それは「**考える**」ことです。**患者さんの訴えをないがしろにせず、「なぜその訴えが生じているのだろう？」と考えること**、この“考えるセンス”がきわめて重要です。本稿ではこの“考えるセンス”を育むためのteaching pearl^{*}をたくさん紹介します。皆さんが、「腹痛を訴える患者さん」の対応に余裕をもってあたれるようになることを願っています。

* 1 [pearl] パール。「短いフレーズ」や「珠玉の言葉」の意味をもつ。クリニカル・パール（臨床医からの貴重な助言、医学的に一般化できるもの）等の表現で使用される。